# This Page Is Inserted by IFW Operations and is not a part of the Official Record

# **BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

## IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning documents will not correct images, please do not report the images to the Image Problem Mailbox.



梅. 許 夏(4)

昭和48年11月7日

#### 整件序员官 蒙

発明の名称 デカンサウンコンドウタイ セイブロウ 電視非酸器等体の製造法

オオサルとがスミョンクンザデョウ

女がり

(はか/名)

特許出職人 郵便番号 347

大阪府大阪市東区道修町3丁目/2番州

(792) 檀野蘭製業株式会社

代表在一日刊一月

大阪市福島区営派上は丁百47

WWW. MARKET AND THE PARKET - 584/

進對觀警操作式会社們所第1階級 08~438~5847

**介是士(4703) 岩 時** 

北部付書祭の日祭

以 明 相 胃.

b) 委任·获

は 田 田 田 本

**大** 

/B 48-125187

### (19) 日本国特許庁

### 公開特許公報

①特開昭 50-76072

43公開日 昭50.(1975) 6.21

②特願昭 48-/25187

②出願日 昭49.(1973) 11.7

審查請求 未請求

(全.7頁)

**庁内整理番号** 7043 44

7306 44

6855 44 6855 44

52日本分類

.16 E431

16 E432 16 E433

30 B4

(1) Int. C12

C07D213/62

C07D213/81

C070213/84

C07D215/20

C07D217/244

A61K 31/44

A61K 31/47

ES 201 2

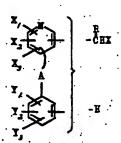
5...

4 発明の名称

置換酢酸誘導体の製造法

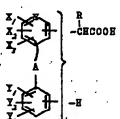
2特許請求の範囲

--- 数量



「式中、スァス」 スァイン 対よび T はそれぞれ水素、アルキル基、アルコキシ基、カルボギシ基、カルボギシ基、アシルズ・シアノ基、水酸基、アシルオキシ基、アシルアでノ基、トリフルオロメチル基、あるいはハロゲンを表わし、これらの置換基のうちの任意の2 置換基が結合してピリシン環あるいはベンゼン環に結合する設理あるいはベンゼン環を形成してもよく。 スはハロゲンを表わし、人は酸素あるいは確實を表わし、人は酸素あるいは確實を表わし、人は酸素あるいは確實を表わし、人は、

且は水素あるいは低級アルキル基を表わす。ただ し上記一般式中の一でIX 基は2個の置換器により 形成されたペンゼン最上に存在してもよい。 ) で示される化合物をカルボキシル化反応に付して 一种さ

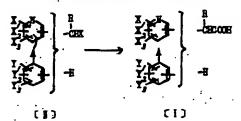


〔式中、 X, X, X, Y, Y, Y, AおよびRは前記と問意義を表わす。〕
で示される化合物を得ることを特徴とする量換酢 酸腸等体の製造法。

3発明の詳細な説明

本発明は世典酢酸精事体の製造法に関し、さら に詳しくは使れた抗失症作用(抗サクマチ作用) 合む)および鎮痛作用 示し、医薬性たはその合 成中間 として有用な戦機酢激誘導体の製造法に 関する。

本発明方法の要旨は次式によって示される。



ら遊ばれる関一または相異なる!~3個の電機基 によって各々ペンゼン環およびピリジン環が電機 されていてもよい有機ハロゲン化合物である。

本発明方法の実施においては通常ペンジル型ハッケン化物に対して用いられるすべてのカルボキシル化方法を用い得るが、そのユ、3を例示すると次のとおりである。

まず一例としてはハロゲノアルキル講客体(目)のハロゲン原子をシアノ基に置換する。この反応は不活性容疑(例えば、ピリジン、ジメテルホルムアミド、ジメテルスルホキンド、ノーメテルースーピロリドン、水、メタノール、エタノール)中ンアノ 化試剤 (例えば、シアン化集一個、ペンアノール)中ンアノ 化試剤 (例えば、シアン化集一個、ペンテルアンモニウムシアナイド)を使用して過常に変換するためにである。次いで得られたシアノアを関係である。次いで得られたシアノアを対応である。次のシアノ基をカルボキシル基に変換するため加水分解に付す。この加水分解は常法に従って行え

てもよい。〕

本苑明方法は一般式( I ) で示されるハロゲノア ルキル関導体をカルボキシル化反応に付して一般 式( I ) で示される対応する電換群階勝導体を得 ることを目的とする。

本発明方法の原料化合物にようは対応するアルコール化合物をパロゲン化水素酸、ハロゲン化チオニルあるいはハロゲン化リンによつて常法通りハロゲン化するととにより得られる。

との原料化合物( ) は一般式において示される
ことくアルキル基(例えば、メチル、エチル、
イソプロピル、イソブチル)、アルコキシ基(例
えば、メトキシ、エトキシ、ブロポキシ、イソブ
トキシ)、カルボキシ基、カルバモイル基、ニトロ基、アミノ基、シアノ基、水酸基、アシルオキシ基(例えば、アセチルオキシ、ブロピオニルオキシ、ブチリルオキシ)、アシルアミノ基(例えば、アルチルアシルアミノ)、無機炭酸アシルアミノ、アリールアシルアミノ)、トリフルボロメチル基あるいはハロゲン(例えば、塩素、臭素)か

はよく、酸性条件下あるいは堪志性条件下のいずれでおこなつてもよい。酸としては複数、硫酸、硝酸、またはこれらと有機酸(伊えば、酢酸)などとの混合物を用いることができ、塩基としては水酸化アルカリ。皮酸アルカリなどが用いられ、水あるいは含水溶媒の存在下で加熱することにより実施される。

さらに他の方法としてはグリニャール試薬をカルボキシル化する方法がある。すなわち、ハロゲン化アルキル既溶体( E ) に常法とおり金属マグネンウムを反応させてグリニャール試薬をつくり、これに冷却下二酸化炭素を導入するかまたは個体炭酸と反応させ次いで加水分解に付すことにより目的とする屋検酢酸調準体が得られる。グリニャール試棄の収率向上の為窒素気液中で反応を行うこと、ヨウドあるいは臭化エチルなどの添加剤を加えること。その他通常のグリニャール試薬による丸ルボン酸合成の反応条件は本発明方法実制の悪にも関係に用い得る。

また。アルカリ金属化合物と炭漿によるカルボ

黄 芝50-76072 億

ン酸の合成法も利用できる。一般にはハロゲノアルキル思導体(I)にブチルリチウムを反応させてリチウム化合物とした後これに二酸化炭素を導入することにより目的化合物(1)を得る。この方法においてブチルリチウムの代りにブロムベンゼンとリチウムまたは砂状ナトリウムアマルガムを用い得ること、二酸化炭素の代りに固体炭酸を用い得ることなども通常のアルカリ金属化合物によるカルボン酸の合成と同様である。

なおこれものカルボキシル化反応中に変化を受けるピリラン類あるいはベンゼン類上の世典基は カルボキシル化反応前に適当な保護基で保護して、 およ反応終了機能基をはずすこと、あるいは反応中に加水分解等の変化を受けた世典基を反応終 了後再び修飾してもその電換器にもどすことなど も必要に応じて考慮されてよい。

本発明方法においては上記されたカルボキシル 化反応に限定されるものでなく、一般式( I )で 示される化合物をカルボキシル化して置換酢酸酸 事体( I )にする方法をすべて包含するものであ

得る。アルミナカラムクロマトに付し、50%ベンゼン/ヘキサン部出部より!んちまのもーフェノキシーまーピリジンアセトニトリルを得る。
IR、CC4 co-/ 3240、

本品 209 に 209 水酸化カリウム水溶液 10 がおよびエタノール 10 配を加え水溶上で 1時間 遺焼する。エタノールを留去後水を加えて希釈し、塩酸で酸性とした後重炭酸ナトリウムでアルカリ性とし、クロロホルムおよびエーテルで洗涤 後活性炭で処理する。次いで塩酸で四半に調整し塩化ナトリウムで飽和しエーテルで抽出する。抽出液を水洗、乾燥後エーテルを留去すると 4 ーフェノムシー 3 ーピリロル酢酸 4 フェリを得る。エーテル/ヘキサンより再結晶すると甲を4~85℃を示す。 IB P Max

#### 実動例 2

オーフェノキシー3ー(αーハイドロキシエチル)ピリジンミュリを四塩化炭素2の以に答解し ー 2~0℃で三臭化リンの四塩化炭素溶液(カノリノ4×4)に20分を要して複下した後3.5に る。かくして待られた世換群酸既等体(1 ] はさらに分離、精製あるいは製剤化の必要に応じて、 適当なアルカリ金属塩(例えば、ナトリクム、カ リウム)、アルカリ土金属塩(例えば、カルシウム、マグネシウム、パリウム)、その他アルミニ ウム塩などに常法に使つて変換することが可能である。

本発明方法の目的化合物である電換酢酸誘導体( | ) およびその塩類は優れた抗炎症作用(抗り ウマチ作用を含む)または鎮痛作用を示し、医薬またはその合成中間体として有用な化合物である。

以下突動例において本発明方法の象徴を示す。 実施例!

2ーフェノキシー5ークロロメテルピリンン
/3889をジメテルスルホキンドアのWに溶解
し、55℃でかきまぜながらシアン化ナトリウム
のジメチルスルホキシド溶液(469/45以)
を加え30分間反応させる。冷却後水水を加え、
エーテルで抽出し抽出液を水洗後炭酸カリウムで
乾燥しエーチルを留去すると抽状表後/279を

20分間隔温度で反応させ、次いで享重で一夜飲 量する。反応液を氷水中に投入し希炭酸ナトリウム水溶液で中和した後クロロホルムで抽出する。 抽出液を乾燥後クロロホルムを割去し抽状表流と してターフェノキシー3ー(αープロモエチル) ピリジンムメダを得る。本品は精製するととなく 次工程に用いる。

本品 138を新らたに翻製したチトラヒドロフラン10mlに溶解し、窒素気流中からませながらー30℃でブチルリチウム (146 amol)33mlを加え10分間反応させた後、乾燥炭酸ガスを2時間半導入する。冷却下に塩酸を加え複合体を分解した後チトラヒドロフランを習去し、残渣をエーテルで抽出する。抽出液を水洗、乾燥養エーチルを留去し、残渣に希重炭酸ナトリウム水溶液を加えて溶解しクロロホルムおよびエーテルで洗剤する。活性炭で処理後塩酸々性としエーテルで抽出し、抽出液を水洗、乾燥養エーテルを留去する。
計蔵エテルより再結晶し甲135~1355℃の3~(5~フェノキシー3~ピリジル)プロピオ

ン酸を移る。

Sーフエノキシー 3ー(αークロロエテル)ピ リツンを用いて罰機の結果を得る。

. . . .

IR "Hajal ca" 2400.1900.1925.

#### 実施例3

被活性質で処理する。複数で選挙に調整し折出する沈確を伊取、水洗、乾燥するとデノ3/~/3¢ ℃のユー(3ーフェノキシー3ーピリジル)プロ ピオン酸を得る。酢酸エチルより再結晶すると、 デノ35~/3よ5℃の結晶を得る。

#### 実施例を

突動例!と関様に反応を行い、ユー( 3-9 ロ ロメチルフエノキシ) ピリジンから3-( 2-ピ リジルオキシ) フエニル酢酸。炉1/0~/// でを得る。

実施例6ータが

実施例/と風機に反応を行い、下記の化合物を 得る。なお下記表中で用いられる略号は下記の意 味を表わす。

No:メチル基

list: メトキシ基

計:エテル基.

180-20:イソプチル基

Ao:アセチル茶

An: アニリン

Ca: カルシウム塩

A8: アルミニウム複合体

d: 分配点

韓郎 昭50-76072(4)

洗、乾燥後エーテルを留去し、甲!30~!3↓ でのユー(ミーフエノキシー3ーピリジル)プロ ピオン酸を待る。酢酸エテルより再結晶し、甲 !3s~!3よs℃の結晶を得る。

#### 奥施例 4

ターフェノキシー3ー(αープロモエチル)ピリシン2クよりをジメチルスルホキシドスの形に 容解し、55℃でかままぜながちシアン化ナトリウムのジメチルスルホキシド溶液(530両/4 対)を加える時間反応させる。 冷却後氷水を加えエーテルで抽出。 抽出液を水洗、乾燥後エーテル、を留主し、油状残液 201としてダーフェノキシー3ー(αーシアノエチル)ピリウンを得る。

II ν CCJ αー・ 2250。

本品は精製するととなく次工程に用いる。

本品/21を205水酸化カリウム水溶液60 mataとびエタノール60mの混液に溶解し、6時 固温流する。エタノールを包去後水を加えて希釈 し、塩酸で酸性とした後重炭酸ナトリウムでアル カリ性としてクロロホルムおよびエーテルで洗涤

	- · ·	l		l				l	
<b>X B O</b>	-CHOOOH ON ON ONE	·æ	-4-	н,	H"	H	r.	Y,	(O.) 4
•	*	×	2-0	. 🛤	=	Ħ	P21	=	D# 6-E 6
. 7	*	<b>m</b>	0-7·	m	Ħ	ą	. <b>ті</b>	Ħ	153~153d
•	*	ŝ	0-4	, <b>#</b>	×	1	Ħ	д	POT/~6//
•	*	K.	7-0		. =	#	<b>m</b>	Ħ	P64~86
0/	*	. 12	9-7	<b>=</b>	=	ğ	· Ħ	<b>m</b>	123-1280
:	ä	Œ	0-7	. =	: <b>#</b>	- ਜੂ	×	<b>#</b>	133~/34d
17	*	. <b>=</b>	3-0	₽.	m	õ		×	1025-1083
2/	*	8	<b>3</b> -0	<b>—</b>	Ħ	ğ	. ==	=	88-48
*	•	2	0-4	· <b>#</b>	Ħ	P		Ħ	110011
51	•	÷	0-7	×	æ	<b>=</b>	··	×	26-46
:	*1	9	9-0	×	æ	. <b>22</b>	<b>=</b>	Ħ	63-63
12	. <b>"</b>	3	0-7	=	<b>=</b>	\$	m	<b>*</b>	511-411
*	<b>n</b>	*	6-0	Ħ	<b>H</b> .	Ħ	Ħ	m	06/35~/36
	N	å	0-9	<b>m</b>	Ħ	ġ		<b>,m</b>	B15-01-8
70	¥	å	8-4	×	m	3	×	<b>m</b> .	60-49 19
ì	*	Š	0-7	æ	<b>=</b>	1		×	138-130d
7	#	÷	0-7	Ä.	×	‡	E	=	DE0/~101
7.3	m,	*	. 8 - 7	=	=	=	=		1163~1153
*	•••	9	0-9	×	<b>=</b>	1	=	.=:	88~38
7	*	*	- T	<b>23</b> .	×	<b>=</b> .	Ħ	Ħ	OB 1#0~1#1
7 6	• •7.	ŝ	0-9	Ħ	Ħ	25	- 123	m	'Os /55
7	*	Ħ	0 -4	#	Ħ	ş	Ħ	m	84-68
ħ	*1	Ħ	0-9	<b>=</b>	×	70			111-111
7	~1	<b>.</b>	. 0-7	.· <b>=</b>	Ħ	ş	<b>m</b>	Ħ	101-101
30	*	å	<b>7</b> -0	<b>#</b>	<b>m</b>	5	<b></b>	Ħ	P901~501
ż	•	z	. 0-9	<b>m</b>	<b>=</b>	Ş	#.	m	762 37
7		•	0-7	<b>,</b>	Ħ	1000			P95/~65/
ing enj	*.	2	0-7	<b>m</b>	#	5		=	Ce 135-(57
*	 •n	Ä.	8-9	<b>=</b>	₽.	<b>3</b> .	<b>=</b>	#	Ca 150
3.5	*	Ř	4-0	<b>m</b>	Ė	100	×	Ħ	160~162(38)

												<i>:</i>				:													•		•	
4(0)	Ca /87:-/89	Ca /325~/325	21.8	Ot 205	113-1164	133-1334	/#3~/#34	P45 ~981	P305~705	05/~6//	P6E/~8E/	120~121	. 98/~58/	13~93	113-116	2000	45-67	81~63.	120-121	, /6~04	9#/~5#/	35-06	seword.	120-121	102-108	Ds / 95d	@ /#Jd ·	Pror so	123-12#d	P#07-601	138-139	113-114
¥.	m	. 🛏	<b>#</b>	Ħ	pq	m	m	Ħ		m	m	<b>#</b>	m	m	, (#13)	Ħ	Ħ	Ħ	<b>7</b>	×	Ħ	¤	Ħ	=	bai	<b>123</b>	<b>=</b>	×	þ	bu	\$	3
, F	<b>*</b>	<b>m</b>	m	<b>m</b>	Ħ	Ħ	·===	ф		#	3	æ	<b>m</b>	<b>2</b>	\$	Ħ	Ħ	Ä	3	1	Ė	. ==	1,	1	Ä	#	f	ţ,	1	7	į	1
<b>*</b>		9	90+	5		*	T S	¥	*	4	X-3F		<b>#</b> .		7	304	¥	3	346	746		Tage.	3	Ş	<b>=</b>	94	f	4	-	4	4	4
H.	· <b>m</b>	Ħ	· <b>#</b>	×	₾.	<b>E</b>	, <b>m</b>	×	=	<b>m</b> .	Ħ	Ħ	#	×	Ħ	Ħ	m	<b>23</b>		E	<b>=</b>	<b>m</b>	<b>#</b>	Ħ	•	<b>E</b>	×		~ =		CC.	, Eq.
, X	<b>25.</b>	×	. #	<b>m</b>	m	'n	<b>m</b>	#	=	ps	#		1	*	<b>=</b>	·.	m	<b>E</b>	m	Ħ	Ħ	Ħ.	Ħ	Ħ.	7	m	=		m.	· .	•	<b>H</b>
-7-	0 - 7	3-0	0-9	0-9	0-7	0-7	. 0-2	0-7	0-7	0-7	. 0-5	0-7	0-7	0 - 9	0-9	0-9	. 0-9	0-9	0-9	0 - 9	0-1	0-1	01	0-1	S-0-8	0-1	0.1	0-1	0-1	0.	0	0
ps	*	•	3	2	ŝ	:	<b>9</b>	2	•	•	•	9	:	ĝ.	2	:	9	2	2	:	•	•	2	, m	· •	•	9		•		•	2
A CREATE	*		•				*	*	*	•		•	•	•	₩.		•	<b>1</b>	- •	~	. — m	· ·	₩	· •			m	- · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	*	¥.1	 	
N. M. Oli	3.6	37	3.5	39	.0.	*	4	£.	*	4.5	. 9 *	6.4	*	<b>.</b>	30	٦,	22	2.5	*5	. 55	95	. 3.9	. 45	65	. 09	7.7	77	. 60	* 9	6.5	. 88	. 67

¥ ; 4−BHCO¥n.	
	•
X ': 4-BHCOORt	

<del></del> ('0')	155-156	135~136	D49/ TD	P9E/~SE/	126~1276	Ca / 45~/46d	1305~4315	13/~/33	144~143	Op 3/6-3/7	122~123	151~153	1225~/235	695-705	Cs 2/Fd
Þ,	3	\$	<b>#</b>	T,	1	<b>=</b>	Ħ	×	<b>"</b> #	<b>#</b>	×	Ħ	<b>m</b>	<b>#</b>	Ħ
Þ,	1	<b>.</b>	34-(CH2)#-	1	Ĵ	OHa).	メイン・サモ	イルシーです	m	Ħ.	<b>#</b>	<b>.</b>	34-(CH3)-%	m	m
H	ij	Ţ.	34-(	Ţ	1	13-(CH3)	4. K	, L.	=	×	123	. <b>#</b>	34-(	9 Let	. #
H,	Ħ	Ħ	ш		<b>m</b>	=	Ħ	×	1	-5.5×-9¥	7.17	GH_1, *-	Ħ	<b>221</b>	₹.
¥	=	<b>#</b>	<b>=</b>	, <b>#</b>	.⊯	· === ·	,m	· 🗪	7	9 45	45-4ンプ	45-(CH2)	<b>=</b>	Ħ	Ŧ
- <b>V</b> -	0-4	9-0	.0-9	3-0	7-0	9 - 0	6 - 0	0-9	9-0	9-7	9-0	9.1	9-0	9-0	9-0
pr.	9	2	3	*	3	2	2	4	2	4	2	£	2	#	2
A CHOOSE	. 6	ų	, <b>a</b> n	*	*	•73	e)	 	•1	*	ed.	69	67	m	•••
***	. 9	69	20	16	. 77	. 7.3	**	7.5	196	12	7 0	19	. 02	12	17

X, CHCOOH

<b>突起</b> 例	I,	x,	フェノキン名の位置	- CHCCCI	Д 7101
83	Ħ	H	<b>.</b>	3	16 76~77
84.	H	Ħ	<b>2</b> .	3	日 //0~///
85	H	Ħ	2		16 /29~/30
86	3-CM	B	. 2	. A .	₩ 198~200
87	J-00103	H.	. 2	æ	<b>%</b> 2/1~2/2
88	B.	Ħ.	· 3	#	130-131
89	H	Ħ .	· #	#	No 180-181
70	34-(0	H2)4-	2	#	166~167
7/	34-~	ンナ	<u>.</u>	.4.	No 145~147
7.2	3-160	<del>gi Ma</del>	. 2	<b>#</b> . ,	No 1356-156
7.3	<b>#-¥o</b>	5- <b>V</b> o	2	#	Xo /43~/43
9#	#-Mo	H	2	#	Ma /23~/25
9.5	4-10	H		#	Mo (2) 273-275
	1			•	

#### 実施例する

ユー(αープロゼエチル)-6-(ユーピリジ ルナモル)+コタリンを電電網/と顕微に反応数 避し、ユー( 6ー( ユーピリジルオキシ) ーユーナフチル) プロピオン酸を得る。 デノタク~/98

特許出票人 . 塩野義製業株式会社

代 组 人 中華上 岩崎 光路

**特尼 昭50-76072(7)** 

ム館配以外の発明者

\*\*パグン ヒガンはが300 大阪府岸和田市東ケ丘町 808の35 ヒロ セ かり ミ 広 編 島 己 手 続 袖 正 書 <del>(意見書に代えて)</del>

李鹏歌

昭和48年12月6日

特許庁長官 嚴

と事件の表示 昭和 48 年特許顕常 / 25 / 87号 2発明の名称

置換酢酸翡導体の製造法

3萬正子,十名君

事件との関係 特許出職人

在所 大阪府大阪市東区道修町3丁目/2番地 9ま/ 年4479 名称 (192) 塩野 義 襲 集 株 式 会 社

古利

代表者

4代 碧 人

住所 大阪市福島区景洲上2丁目47番地 塩野義製製株式会社特許部 (電話06-458-586/)

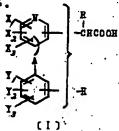
氏名 弁理士(6703)岩 崎 光 駅 1 指発療由通知の日付 昭和 年

/行制器

は補正の対象

明朝者の発明の詳細な説明の編

(の明細書館は夏の化学構造式(1 )を下配のように訂正する。



(5)日書館16頁末行の次に下記の文を追加する。 「住:上表におけるカルシウム塩は実施例26の それは女水和物であり、実施例25では分水和物、実施例35だよび39では1水和物、実施例63、70、73、77および52では15水和物、実施例18、19、33、37、61および62では2水和物であり、実施例36および35では4水和物である。」

的同書的17頁の表の下に下記の文を挿入する。 「注:実無例95のカルシウム塩は1水和物である。」

ELL

特許法第17条の2による補正の掲載 昭和 48年特許職第 | 2 大 18 7 月(特開昭 10 - 76072号 昭和 10年6 月2/日 発行公開特許公報 10 - 76 | 号掲載) については特許法第17条の2による補正があったので下記の通り掲載する。

ist.Cl².	能別記号	庁内整理番号
0070213/81		7138 40
		7138 40
213/84		7138 4c
215/20		7306 UC
217/24		7306 40
11 A61K 31/44		6617 40
31/47		6617 40



#### よ補正の対象

明母者の『特許哨求の範囲』および「発明の群 細な説明」の観。

#### 4.補正の内容

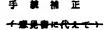
(1)特許請求の範囲を別級のとおり訂正する。

(3)明集者3頁下からを行いる行いる~3行いが 行および3行の「あるいは」を「または」に訂正 する。

(3)同書半賞&行出よび末行の「あるいは」を「 または」に訂正する。

(4)同者?買!!行および!3行の「あるいは」 を「または」に訂正する。

EU F





昭和55年9月12日

#### 特許庁長官 監

ル事件の表示 昭和 48年特許順第 / 25/87 号 2発明の名称

#### 世典酢酸誘導体の製造法

#### 3舗正をする者

事件との関係 特許出版人

住所 大阪府大阪市東区道各町3丁目/2番地

名称 (192) 塩野鶴製製株式会社

代表者 吉利 一 は

4代 理 人

在所 大阪市福島区費州5丁目 / 2 番 4 框 野 觀 製 業 株 式 会 社 特 許 部

氏名 労糧士(6703) 岩 崎 光

ま振発磁由温知の日付 昭和 年

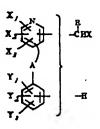




### (別 紙)

2特許請求の範囲

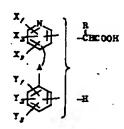
一般式



で式中、X,、X,、X,、Y,、Y, MはよびY」はそれぞれ水素、アルキル基、アルコキレ基、カルボキレル基、アレー基、シアノ基、水酸基、アシルオキレ基、アシルアにノ基、トリフルオロメデル器、またはハロゲンを表わし、これらの配換基のうちの任意のよ電換器が結合してピリツン環またはベンゼン理に組合する問題またはベンゼン環を扱ってもよく。Xはハロゲンを表わし、人は酸素または硬度を表わし、及は水素または低級アルキル番を表わす。ただし上記一

,

R 式中の一CDX 基は2個の電換蓋により形成された ペンセン環上に存在してもよいと) で示される化合物をカルギキシル化反応に付して 一般式



(式中、X,、X,、X,、Y,、Y,、Y,、Y,、Aおよび及は 的紀と同意義を扱わす。) で示される化合物を得ることを特徴とする重換節 徹恩等体の製造法。

(日上)

昭 55 6.14 ...